

概要

幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身につけることを目的とする。

◎人文科学系科目

達成目標

自然を対象にした研究領域である自然科学に対して、人間の本性や行動、文化や芸術的側面に関する研究分野が人文科学である。人文科学系科目では、教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本を身につける。

カリキュラムの方針

人文科学系の科目は哲学、心理学、文学、芸術の領域からなり、教養教育の基礎となる学問領域である。さらに、人文総合領域という区分を設けることで、これらの個別の領域にとどまらないテーマで人文科学的な知識や考え方を身につける授業を用意している。

開設する科目は、哲学領域では、哲学と思想関係の科目、心理学領域では行動、認知、人間関係など心理学の下位分野を踏まえた科目、文学領域では、日本をはじめアジア各国、欧米各国の文学に関する科目、芸術領域では、文化論と美学、芸術学等の科目である。さらに、人文総合領域では、学習・教育やコミュニケーションなどに関する複数の領域にわたる科目を開設する。

これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得することができる。

◎社会科学系科目

達成目標

社会科学系科目は、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力を養うことを目的とする。また、日本社会のみならず、国際的な視野に立ち、それぞれの社会の特殊性への理解を深める。この過程を通じて、政治・社会・経済といった我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、そこに主体的に働きかけ、よりよい社会を形成してゆく力を養成する。

カリキュラムの方針

多様な現実社会の理解を可能にするため、社会科学系は多方面の科目から成立している。それらは「法学領域」、「政治学領域」、「経済学領域」、「社会学領域」、「地理学領域」、「歴史学領域」の6領域に、これらの領域を横断する「社会総合領域」を加えた7領域に分類される。

履修者は自身の必要に応じて履修すべき領域を決定し、それぞれの領域から科目を選択することで、各自の学習計画に応じた履修が可能となる。この領域分類を参照することで、各領域から過不足なく履修し、バランスよく知識を修得し、様々な問題に対応するための基礎力を修得することが可能となる。

◎自然科学系科目

達成目標

自然科学に関する基本的な知識や技能を修得し、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識に触れ方法論を学ぶことによって、持続可能な社会の形成を担う先進性と独創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養を身につけることを達成目標とする。

カリキュラムの方針

自然科学系科目の達成目標に到達させるために、次のように授業科目が編成されている。大学での学習の基盤を育成するため、本科目は1～2年次を中心に履修する。

開設する科目は学生の要望に応えられるように「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目を開設している。これらの科目の中から自分に必要と思う科目を選択し履修することで自然科学に関する幅広い基礎知識を身につける。

◎健康科学系科目

達成目標

「運動」、「栄養」、「休養」が有機的に融合したスポーツ科学や健康関連諸科学を体系的に修得し、生活の質的充実の基盤となる食事や健康の重要性とスポーツの果たす役割やスポーツが本来有する「楽しみ」を知り、自ら健康を維持増進させるための基本的な知識と実践力を養成する。

カリキュラムの方針

健康科学系科目の達成目標に到達させるため、次のように授業科目が編成されている。本科目は1～2年次を中心に履修し、大学および将来にわたって生活の基盤となる「運動」、「栄養」、「休養」に関する諸科学を修得する。

開設する科目は「スポーツの文化や社会での役割、トレーニング法とその効果」に関する科目、「食と栄養」に関する科目、「心身の健康」に関する科目などである。これらの授業を履修することにより健康科学に関する幅広い教養と実践力を身につけることを目指している。

◎初習外国語系科目

達成目標

大学に入学する以前、学んだ経験のない外国語（初習外国語）の学習を通じ、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」ことについての基礎的能力を養うとともに、英語学習のみでは気付きにくい、諸外国や異文化の多様性への興味を喚起し、理解を深め、地域的な視野を踏まえた幅広く深い教養と豊かな人間性を醸成する。また、語学学習を通じた自律的な大学での学びの基礎づくりを行い、現代社会に必要なリテラシーを身につけさせる。

なお、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、朝鮮語、タイ語が設定されている。

カリキュラムの方針

1年次対象科目として、「初習外国語基礎Ⅰ」、「初習外国語基礎Ⅱ」、「初習外国語基礎Ⅲ」、「初習外国語基礎Ⅳ」を開設している。これらは、いずれも大学入学前に、それぞれの言語を学習したことのない初習者を対象に「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」といった力を養うものである。

また、上記科目を修得後、2年次以降を対象とした科目として、「初習外国語応用Ⅰ」、「初習外国語応用Ⅱ」が開設されている。当該科目では、各言語の基礎的能力を確認しながら、コミュニケーションやプレゼンテーションなどの実践的な能力の向上を図る。

一つの言語で、「初習外国語基礎Ⅰ」、「初習外国語基礎Ⅱ」、「初習外国語基礎Ⅲ」、「初習外国語基礎Ⅳ」、「初習外国語応用Ⅰ」、「初習外国語応用Ⅱ」の6科目を学ぶことにより、各言語の基礎的コミュニケーション能力を段階的に向上させることが可能となる。また、「初習外国語基礎Ⅰ」、「初習外国語基礎Ⅱ」のみを履修することによって、自律的な語学学習スキルを修得することも可能となる。

なお、国際学部学生は、「初習外国語基礎Ⅲ」、「初習外国語基礎Ⅳ」、「初習外国語応用Ⅰ」、「初習外国語応用Ⅱ」を、専門導入科目として履修する。

◎総合系科目

達成目標

社会問題や企業の第一線から見た世界を知ることにより、変化が激しい現代社会への視野を広げながら、持続可能な社会を創造するために必要な、科学的な根拠を備えた提案や行動に繋がられる課題解決力、すなわち行動的知性の養成を目標とする。

カリキュラムの方針

教室外活動の実施、大学内外のさまざまな組織からの講師の積極的登用、授業の一部を一般市民に公開することによる社会との交流などを取り入れながら、アクティブ・ラーニングという新しいスタイルでの教養科目とする。教員と学生間、あるいは受講生同士の双方向型の討論等を積極的に取り入れた授業スタイルの課題解決型学習を中心とし、受講生の主体的な参画により、課題解決に向けた知の統合と実践を行う。さらに、企業等から提供される授業もあわせて実施し、現在および将来にわたり“あらたな社会”を創るうえで求められる行動的知性を養成する。

◆石巻におけるボランティアの様子（平成23年7月）

